

第7回標準委員会議事録

(日本原子力学会)

1. 日時 2000年12月12日(火) 14:00~16:30

2. 場所 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 近藤 (委員長)、友野 (副委員長)、成合 (幹事, TG01主査)、平沼、五百旗頭、大西、大山、恩地、鬼澤、喜多尾、佐藤、竹田、中平、根岸、林、東、山下 (以上委員 17名)

(代理出席委員) 岡本 (井上代理)、村山 (古平代理)、有富 (藤井代理)、安藤 (宮野代理) (4名)

(欠席委員) 山脇、池澤、熊澤、新田、本部、大和 (6名)

(常時参加者) 荒木、飯村、岩田、河本、永田、宮川、矢作 (7名)

(発言希望者) 姉川、尾崎、白木、高橋 (4名)

(事務局) 太田、市園

4. 配布資料

SC7-1 第6回標準委員会議事録 (案)

SC7-2 人事 (案) について

SC7-3 標準委員会の活動状況

SC7-4 標準原案に対するご意見について

SC7-5 使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準 (案)

SC7-6 部会活動状況報告

-1 「停止時P S A実施手順」骨子 (案)

-2 BWRにおける過渡的な沸騰遷移時の燃料健全性評価基準骨子 (案)

-3 使用済燃料貯蔵施設の安全設計・評価基準〔金属キャスク貯蔵方式〕(案)の作成に関する検討状況報告

-4 〔標準本体附属解説目次構成について〕(案)

-5 臨界安全管理分科会の検討状況について

SC7-7 運営費の試算 (案)

SC7-8 標準の定価について (案)

SC7-9 日本原子力学会標準販売計画書 (案)

SC7-10 免責条項及び著作権の記載について（案）

SC7-11 標準の体裁等について（案）

SC7-12 公衆審査の意見募集先について（案）

SC7-13 標準制定スケジュール（案）

SC7-14 第15回発電用設備規格委員会議事録

5. 議事概要

議事に先立ち、事務局より、委員27名中代理委員を含め3分の2以上の21名の委員が出席しており、決議に必要な定足数に達している旨の報告があった。

（1）前回議事録の確認

前回議事録について承認された。

（2）人事について

大山委員より、職務の都合により委員を退任したい旨の申し出があった。五百旗頭委員より、九州電力原子力建設部長の大神達治氏が適任と思われ、新たな委員として推薦したいとの提案があった。挙手による決議が行われ、全員一致で大神氏を新委員として選任した。

成合幹事より、干場委員が11月末に職務の都合による退任の意思を示された旨の報告があり、退任について了解した。また、後任の原子力安全室調査室長川原田信市氏が新たな委員として適任と思われ、推薦したいとの提案があった。挙手による決議が行われ、全員一致で川原田氏を新委員として選任した。

事務局より、資料SC7-2により、専門部会の人事について説明があり、以下について、全員一致で承認した。

中澤正治氏 研究炉専門部会長

本部和彦氏 新委員 発電炉専門部会

森本研次氏 //

森一麻氏 // 原子燃料サイクル専門部会

高柳政二氏 // 研究炉専門部会

（3）活動状況について

事務局より、資料SC7-3により、前回委員会以降の活動状況について報告があり、発電炉専門部会で「安全解析のための風洞実験分科会」の設置が決定し、準備中であること、原子力安全委員会に本委員会の活動状況を報告して、意見交換を行った等が報告された。標準ができた都度、ある程度定期的に安全委員会、通産省及び科学技術庁に本委員会の活動状況を説明することが必要であるとの意見がだされた。

（4）標準原案の公衆審査結果について

事務局より、SC7-4により、標準原案公衆審査結果について、2ヶ月間の審査で特に一般からの意見はなかったとの報告があった。一般からの意見がないということで、標準の原案通り成立を確認した。

（5）部会等活動状況

a) 原子燃料サイクル専門部会

東委員より、SC7-6、7-6-4、7-6-5により、第4回部会の報告及び各分科会の活動状況報告を行い、臨界安全分科会での位置付け・方向性の議論、輸送容器分科会での輸送容器の安全解析手法について標準制定予定、廃棄物管理分科会での分配係数について解説書を集大成する計画。リサイクル燃料分科会での金属キャスク安全設計評価基準の検討について報告があった。

続いて、高橋氏より、SC7-6-3により、リサイクル燃料貯蔵分科会で作成中の使用済燃料貯蔵施設の安全設計・評価基準について骨子の報告を行った。以下のような審議があった。

- ・コスト的にはコンクリートキャスク（貯蔵専用）のほうが良いと聞いている。コンクリートキャスクについての検討を学会でも早くやった方が良い。→検討したい

- ・安全審査指針は金属キャスクのみについて規定している。そのため、コンクリートキャスクについては安全審査指針を新たに制定する必要がある。原子力安全委員会で、一次審査に係わる技術要件として安全審査指針をまとめているが、取合えず金属からということに進んでいる。

- ・金属キャスクについては原安協での検討がある。コンクリートキャスクについては未だであるが、原安協で検討の予定がある。

また、廃棄物管理分科会について、

- ・分配係数の標準化は、実際は測定方法の標準化に近いものである。

b) 発電炉専門部会

成合幹事より第4回部会の状況報告で、新分科会（安全解析のための風洞実験）設置の説明があった。また、矢作氏よりSC7-6-1により、確率論的安全評価分科会の、姉川氏よりSC7-6-2により、炉心燃料分科会の、夫々の作成標準の骨子説明があった。以下のような審議が行われた。

- ・新分科会（安全解析のための風洞実験）設置について、風洞実験は発電炉に限定せず、サイクル施設も対象に入れて欲しい。気象指針もサイクル施設に準用している。

- ・確率論的安全評価分科会について、停止時PSA基準では、メンテナンスにおける具体的な禁止条項等についても言及するのか →あくまで評価のための解析手法をガイドラインとしてまとめるものである。停止時PSA評価の結果得られる有効な知見については、このガイドラインとは別である。具体的にどうするかは評価結果に基づいて現場が決定することになる。

c) 研究炉専門部会（状況）

事務局より、SC7-6により、研究炉専門部会及び研究炉廃止措置分科会の状況、及び二つ目の分科会である遮蔽設計分科会の立上げ状況の説明があった。

(6) 標準について

a) 販売計画

事務局より、SC7-7にて、運営費の試算をベースに経費とそれに見合う収入とのバランスの説明があった。続いてSC7-8により、標準の定価（会員価格）について、収支バランスから平均の定価は6500円である。また、厚みによる補正を考慮して、定価を3段階とする考えが参考に示された。審議の結果、50ページ以下5000円、50～150ページ6500円、150ページ以上8000円を目安とすることとし、今回の輸送容器基準は 会員価格：5000円、非会員価格：6000円とすることを決定した。以下のような審議が行われた。

- ・標準事業から学会への費用支払いについては、この費用算定には含めていない。また、消費税は別である。

- ・確率論的安全評価の標準等は、150頁以上になると思われる

- ・将来、標準を見直して一部差し替える場合の価格の問題などが出てくる。
- ・標準の販売については各組織の予算時期を考慮し、担当者に事前に伝えておく必要がある。

b) 免責条項等

事務局より、SC7-10により、免責条項及び著作権に関する記載の説明があり、了承された。

c) 体裁等

事務局よりSC7-11により、表紙等体裁案が示された。審議の後、以下を決定した。

- ・体裁について、今回の議論を踏まえ友野副委員長に一任する。
- ・タイトル及びまえがきの英文を、まえがきのところに入れる。
- ・標準には基本的・包括的なものから部分的なものまで様々なランクができる。これを表現できる付番の仕方採った方が良いとの意見が出されたが、現状では、5年後にリナンバリングすることも視野に入れ、取合えずこのままとする。

(7) その他

a) 公衆審査の意見募集先について

事務局よりSC7-12により、公衆審査における意見募集先について説明を行った。今回機械学会が入っていなかった。今後は相互にレビューしあうこととした。以下のような審議が行われた。

- ・今回の公衆審査は意見無しであったが、送付先が不十分であったという反省があるのではないかと。米国では同業者からの意見が多い。本当の意見は近い場所にいる人から出るのではないかと。
- ・コメント＝問題ありという認識が多く、賛成の人はコメントを出さない。賛成のコメントも貴重であり、これを受け入れれば、かなりの意見が出てくるのではないかと。
- ・安全委員会の技術参与、メーカーの分科会に参加している人と別チャンネルの人に送付したら良い。

b) 標準の認証・認定について

成合幹事より、第1号の標準もできてきたので、そろそろ標準に従った活動の認証・認定方法について検討を開始してはどうかとの提案があった。この件については、新しいアクティビティーであり、幹事会で議論することとなった。

c) 事務局よりSC7-13により、標準制定スケジュール（案）が示された。今後の委員会の日程は、本案を参考に計画的に設定していくこととした。

d) 成合幹事よりSC7-14により、機械学会の発電用設備規格委員会の状況報告があった。

6. 次回開催予定

第8回委員会を、4月17日（火）午後2：00～5：00の予定で原子力学会会議室で開催することとした。

以上